

# im/pulse

## 脈動する映像

Vincent Moon, contact Gonzo, and the Anthro-film Laboratory

# JUNE 2 – JULY 8, 2018

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 堀川御池ギャラリーを含む全館で開催

美術表現が多様化する現在、広い視野と知識を以てその文脈を深く理解することは非常に重要です。90年代以降、フィールドワークなど人類学的手法を活用したポストコロニアル理論など、文化の差異や他者などをキーワードに意味作用を問う作品が多く見られるようになりました。観察や実測は、物質の動きや働きを対象とする自然科学や、人間と環境、行動やその背後にある制度を対象とする社会科学における調査研究の基本ですが、従来の学問領域を超えたアプローチが日々更新されているのだと言えるでしょう。その次なる展開として、幅広い学問領域の知と技術を活用し、言語的な理解だけでなく、深部の感覚や感性の作用の差異を扱う表現が目ざされつつあります。

このような動向を踏まえ、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAでは、文化庁補助事業である「状況のアーキテクチャー」2017年度のプロジェクトとして「物質＋感覚民族誌」に取り組んでいます。当該事業は、京都市立芸術大学芸術資料館の芸術資料を「感覚民族誌」の視点から再検証することで、従来にはないリサーチとキュレーションのあり方を考察するものです。

本企画ではさらなる発展を目指して、「感覚民族誌」的観点から見ても優れたアプローチを取る映画監督、ヴィンセント・ムーンならびに即興的な身体接触から始まるパフォーマンス・映像・写真など発表形態を固定しない活動で国内外から高い評価を得る contact Gonzo を招聘し、展覧会を実施するとともに、二組の協働によりさらに拡張された領域に突入する表現の創出を企めます。また二組による作品の展示・パフォーマンスに加え、映像人類学者の川瀬慈（国立民族学博物館准教授）をディレクターに迎えて公開型のセミナーや実験を行います。川瀬はこれまで、文化人類学、映画、アートが交差する実践のなかで、言語に依拠するだけでは伝達されえない知や経験の領域を探究し、人文学における新たな知の創造と語りの新地平を切り開くことを目指して、国立民族学博物館にて映像人類学者を中心とする研究会「Anthro-film Laboratory」を自主的に実施してきました。その手法を取り入れさらに領域を拡大して行うセミナーや実験は、国内外の映像人類学者と美術作家、また幅広い領域に携わる研究者などが、「文化人類学・民族誌学」と「アート」という二つの文脈の交差として読み取ることでできる表現を超えて、従来の学問それぞれの

アーキテクチャー自体を拡張、発展へとつなげる極めて重要な実践となることを確信しています。

(2017年11月)

### 「im/pulse: 脈動する映像」

会期：2018年6月2日(土)–7月8日(日)

会場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA  
〒604-0052 京都市中京区押油小路町238-1  
11:00–19:00 | 月曜休館 | 入場無料

企画：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

主催：京都市立芸術大学

助成：公益財団法人 野村財団

京都市立芸術大学  
Kyoto City University of Arts

@KCUA



## ヴィンセント・ムーン(Vincent Moon)

パリ出身のインディペンデントフィルムメーカーであるヴィンセント・ムーンは、フランス発の音楽情報サイト La Blogothèque のためにシネマ・ヴェリテの手法(作り手の存在が映画から排除される虚構上のトリックを排し、映像の作り手が被写体の人々と関わる行為そのものをも記録し、映画をより真実に近づけようとする手法)によって制作された作品の数々でその名を知られるようになる。2008年からは遊牧民のごとくカメラひとつで世界を旅し、現地の伝統音楽から宗教的な儀式、新しい実験音楽までを幅広く探求し映像を制作。オルタナティブなインディーズミュージックシーンの撮影から始まったこれらの旅の記録映像は、彼の生涯をかけたノマディック・フィルムメイキングプロジェクトとしてウェブ上で公開され、また世界各地でフィールド録音された音源は、自身のレーベルであるCollection Petites Planètes より配信されている。現在、2018年の実施を目指し、日本における魂を震わせる表現を記録する旅、HIBIKIプロジェクトの準備を進めている。

## contact Gonzo(コンタクト・ゴンゾ)

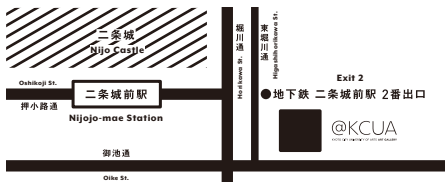
2006年に塚原悠也と垣尾優により結成されたパフォーマンス集団。「contact Gonzo」とは、70年代のゴンゾ・ジャーナリズムに由来し、グループの名称であると同時に、身体を「接触」させる独自の的方法論の名称でもある。街中や公演で即興的なパフォーマンスを繰り広げつつ、映像や写真作品を制作。結成当初からパフォーマンスの記録映像をYouTubeにアップするなど、メディアを活用した活動を展開。また、07年「吉原治良賞記念アートプロジェクト」に参加以降、現代美術の分野でも注目され、多くの国際展や芸術祭などに参加している。13年にはニューヨーク近代美術館(MoMA)にてパフォーマンスを発表した。現メンバーはNAZE、松見拓也、三ヶ尻敬悟、塚原悠也の4人。パフォーマンス、インスタレーション、マガジンの発行など多岐にわたる活動を展開している。2015年度よりゼゾン文化財団シニア・フェロー助成として採択。

## Anthro-film Laboratory(アンスローフィルム・ラボラトリー)

文化人類学、映画、アートが交叉する実践のなかで、言語に依拠するだけでは伝達されえない知や経験の領域を探求し、人文学における新たな知の創造と語りの新地平を切り開くことを目指している。運営委員は川瀬慈、ふくだべろ、村津蘭、矢野原佑史ほか。

### 川瀬慈(かわせいつし)

映像人類学者、国立民族学博物館准教授。エチオピアの音楽職能者等を対象とした人類学研究に基づき映像作品を制作し各国の民族誌映画祭で発表してきた。代表的な作品に『ラリベロッチ』『僕らの時代は』『精霊の馬』『Room 11, Ethiopia Hotel』『ザフィマニリストイルのゆくえ』『めばえる歌—民謡の伝承と創造—』等。2012年より、Anthro-film Laboratoryを共同運営し、様々な分野の表現者、研究者との対話からオーディオビジュアルの語法の開拓にとりくむ。近年は日本の他にも、ドイツ、中国、韓国、エチオピアにおいて映像人類学の理論と実践に関する教鞭をとる。



## 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

〒604-0052 京都市中京区押油小路町 238-1  
地下鉄: 「二条城前」駅(2番出口)南東へ徒歩約3分  
市バス・京都バス: 「堀川御池」下車すぐ  
TEL: 075-253-1509 FAX: 075-253-1510  
E-mail: gallery@kcua.ac.jp  
URL: <http://gallery.kcua.ac.jp>

 <https://www.facebook.com/akcua/>

 @gallery\_aKCUA

## Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA

238-1 Oshiburanokoji-cho  
Nakagyo-ku, Kyoto 604-0052

11 AM - 7 PM | Closed on Mondays | Free admission

Subway: 3-minute walk from Nijojo-mae Station  
(Station T14), Exit 2

Nearest bus stop: Horikawa Oike

Phone: +81-75-253-1509

FAX: +81-75-253-1510

E-mail: gallery@kcua.ac.jp

Website: <http://gallery.kcua.ac.jp>

